

中野区教育委員会会議録

令和2年第4回臨時会

令和2年7月30日

中野区教育委員会

令和2年第4回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和2年7月30日(木曜日)

開会 午後6時37分

閉会 午後9時12分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 渡邊 仁

○出席職員

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

永田 純一

指導室長

宮崎 宏明

○書記

教育委員会係長 金田 英司

教育委員会係 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和3年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後 6 時 37 分開会

入野教育長

こんばんは。定足数に達しましたので、ただいまから教育委員会第 4 回臨時会を開会いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症がまだまだ拡大している状況であり、会議に出席する事務局職員を、極力減らすなどの感染予防対策を行っております。

本日の会議録署名委員は、渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

<事務局報告>

入野教育長

協議事項に入る前に、緊急で報告事項がありますので、事務局からお願いします。

指導室長

それでは、中野区立中学校に通う生徒の新型コロナウイルス感染について、ご報告いたします。

7 月 28 日火曜日、中野区立中学校に通う生徒 1 名が新型コロナウイルスに感染していることが確認されました。

当該生徒は 7 月 18 日土曜日まで登校していましたが、それ以降は登校しておりません。また、現在のところ、今週登校している生徒及び教職員に発熱やせきが続いている者はありませんが、対応が必要と判断された生徒には、保健所から個別に連絡をしているところでございます。

生徒が 7 月 18 日土曜日以降登校せず、日数が経過していること、それから学校が毎日授業終了後に消毒を行っていることなどから、保健所からは学校を閉鎖しての消毒の必要はないとの判断があったため、翌日以降も学校は平常どおりに授業を行っているところでございます。

以上でございます。

入野教育長

何かご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

渡邊委員

質問ではないのですけれども、どうしてもこれだけ東京都の中で広がっている現状を考

えると、こういったことが起こることは仕方ないことだろうとは思いますが、ですけれども、健康に関わる問題でありますので、しっかりした対応を、保健所としっかり連絡を取り合っ
て、今後も行っていたきたいと思っておりますので、これは要望として、よろしくお願
いいたします。

また、最初のケースになってしまいましたけれども、このケースを教訓に、どのよう
に対応していけばいいのかということを変更して各学校と情報を共有しながら、今後
に備えたいと思っておりますので、ぜひそのあたりもよろしくお願
いいたします。

入野教育長

ほかにごございますでしょうか。

委員の方々から常にご心配いただいております、こういうケースにおける人権に配慮
した対応等については、十分注意をしていくように、改めて当該校にもお話を
しておりますし、周囲の学校にもお話をしております。

併せてご報告いたします。

それでは本報告は終了いたします。

ここでお諮りをいたします。

本日の協議事項「令和3年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議
の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第10条第1項に基
づき、非公開の取扱いとなっておりますので、本日の教育委員会についても、地方教育行政の
組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書のとおり、非公開としたいと思
いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

それでは日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛てに要望書
などが届いておりましたら、ご報告願います。

指導室長

前回の臨時会から本日までに、要望書が1件届きましたので、ご報告させていただきます。

7月27日付で区民の方より要望書をいただいております。

詳細につきましては、お手元の資料をご覧くださいと思います。

報告は以上でございます。

入野教育長

何かご質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ご質問等がございませんので、本報告は終了いたします。

<協議事項>

入野教育長

それでは前回に引き続き、令和3年度使用教科用図書の採択についての協議を行います。

協議の進行につきましては、これまでと同様の方法により行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

前回の協議では、音楽（一般）の教科書を採択候補とするに当たり、音楽（器楽）との関連で協議をしたほうがよいとのご意見がございました。今回はまず音楽の器楽を行い、一般と併せて採択候補を決めていきたいと思います。以降、順次協議を進めてまいります。

それでは、音楽（器楽）についての協議を行います。

まず小林委員、お願いいたします。

小林委員

それでは、器楽に関してですが、これに関しては一般とは区別しなければいけないのは、どのように必要な技能を身につけるかということはかなり大きな要素だと思います。

しかし、それだけではなくて、感性豊かにするとか、親しむ態度であるとか、豊かな情操であるとか、そういった点にも十分配慮していく必要があると思います。

この両社については、全体的に装丁からすると、見やすく非常に取り組みやすいというのが、総じて教育出版のほうかなと思っています。また、取り上げられている楽曲も、内容的にもより吟味し、芸術性の高いものとなると、教育出版のほうが優れているのかなと、私自身は判断をいたしましたので、器楽については教育出版で進めるべきではないかなと思っています。

以上です。

入野教育長

次に田中委員お願いいたします。

田中委員

私も教育出版を推薦したいと思います。「まなびリンク」でQRコードからいろいろなコ

ンテツを見ることができ、内容も利用しやすいと思われました。

今回の緊急事態宣言などの状態も踏まえて、これからこういった部分が評価されてもいいのかなと思います。

また、内容の中で、比較的量の多いリコーダーのところでも、指づかいなど、コンテツの中で工夫がされていて、家で学ぶときにもわかりやすいのではないかなと感じました。

もう1点、音楽文化のところ、「何が同じで、何が違う」ということを、例えば弾く楽器としてギターと琴と三味線などを取り上げて、生徒が感じたことを書き込めるような工夫があって、楽しく積極的に学べる構成になっていると感じました。

そういった意味から、教育出版を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

次に渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

私は器楽のほうは、若干教育芸術社が、いろいろとわかりやすいのかなと思いました。

専門ではないので、わからないところはあるのですが、教科書の扱いがLesson 1、Lesson 2のように、段階的にできているところのほうがいいとも感じておりました。

ただ、この甲乙つけがたいような状況の中で、前回の音楽一般で、私は教育出版のほうを推薦したわけなのですが、そういった意味で、授業の展開のときに、器楽と音楽一般の関連を考えて、教科書を2社に分けて採択するのはいかがなものかなという気持ちはあります。やはりその点、教員のほうから、できればそろえていたほうが授業の展開その他等がやりやすいとか、そういうことがあるようであれば、例えば音楽一般は教育出版を選ぶのであれば、器楽も教育出版でもよろしいかなと考えております。

そのあたり、どうしても甲乙つけがたいような状況かなとは思っています。

以上です。

入野教育長

それでは伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

どちらの教科書にも利点があって、ただやはり、二つ、割と対照的なところもあるのかなと思っています。

教育出版のほうは比較的、基本的なことが書かれていて、そういうわかりやすさもあるかなと思うのですが、見やすさとか、本当のポイントみたいなことは教育芸術社が、わかりやすいかなと思っておりまして、音楽の一般との関連でしたらば、一般で教育芸術社が、琴の扱いが薄いかなと思ったのですが、器楽のところにはきちんといろいろな奏法なども書かれていて、中野区は和楽器の学習で琴を用いると思いますので、そういう意味では教育芸術社は琴のところがとても詳しいですし、一般との関連でよいのかなと思いました。

ただ、物すごく差があるかという、方向性の違いというのは大きいと思うのですが、子どもによってどちらが学びやすいかはいろいろなかなとは思いました。

以上です。

入野教育長

それでは最後に私から意見を申し上げたいと思います。

器楽の狙いとして、我が国や郷土の伝統音楽への関心を深める。様々な音楽文化に対する興味・関心を高めるという、その狙いについては、中野区の目指しているところである国際社会に生きる日本人の育成についても、非常に大事にしていきたい部分であるなと思います。

その面で、両社の教科書を見たところ、委員の方々からご意見があったように、2社それぞれのよさと特徴があるように思います。

教育芸術社は世界の民族の楽器、特に打楽器を多く取り上げておりますし、都の調査もそのようなデータがございます。そして電子楽器の取り上げもあること。それからQRコードからプロの演奏を聞くこともできて、中野区のほとんどの学校で取り上げられている、伊藤委員もおっしゃっておいりました琴の奏法も、基礎・基本を習得しやすいように感じます。

教育出版は、都の調査では独奏や斉奏の演奏形態の曲が多いので、学校音楽にはよいのではないかなという感じもしますし、諸外国の曲数も多いので、いわゆる異文化理解についても、楽器の背景にある文化や伝統についても調べるなどの発展的な内容があるので、評価できるかなと思ひまして、中野区に多くの外国から子どもたちも迎えているということ考えると、使わせたい教科書であるなということで、私自身は教育出版でも教育芸術社でも、それぞれにいいなと思ひましたが、若干教育出版のほうがいいのではないかなという結論に達しております。

ほかに、各委員から発言はございませんでしょうか。

それでは休憩いたします。

午後 6 時 51 分休憩

午後 6 時 52 分再開

入野教育長

再開いたします。

各委員のご意見とも、甲乙つけがたいというご意見ではございましたけれども、器楽については教育出版のほうが強かったように感じております。一般につきましても、同じような傾向でしたけれども、若干ご意見の中では教育出版のほうが多かったように感じておりますので、一般と器楽については一緒の会社をとということでございますので、協議の結果、一般についても器楽についても、教育出版をとということでよろしいでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、音楽一般と音楽器楽については教育出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは美術に入ります。

まず田中委員お願いいたします。

田中委員

3社とも教科の目標である鑑賞活動のための美術作品を工夫を凝らして掲載していると思いましたが、日本文教出版の写真がとてもきれいで、生徒の心に訴えるものになっているように感じました。

また、日本文教出版の造形的な視点というところは、造形的な見方・考え方を各題材ごとにわかりやすく提示してあって、授業の展開にも役立つものと思われまし、また生徒に中学校以降も芸術文化に豊かに関わる資質を育むものではないかと期待できるように思いました。

また、区民意見でも、最近の子どもたちは本物の美術作品に触れる機会が多いとは言えないので、少しでも美術のおもしろさを感じてもらえる配色や図版が、日本文教出版についてはよいという意見もあったことも踏まえて、日本文教出版を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

次に渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

美術の教科書の目標に、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、また、美術を愛好する心情を育みというような部分が内容にありました。特に私はそのことを重点的に見てみました。

実際、私は、この3社の中では、どれもすばらしい教科書に仕上がっているなど感じていたのですが、その中でまず作品の数という見方も資料としていただきましたので、見させていただいたところ、やはり開隆堂出版は外国の作品とか、伝統的な美術品の点数が多く含まれている。また、日本の芸術作品も多く取り上げられている。そのことは非常に好感を持てたのですが、生徒の作品という観点では、日本文教出版が多く取り上げられている。これらをどういうふうに考えればいいのかと思ったのですが、資料として見ていくには伝統的なものもよろしいかもしれないのですが、生徒の作品が多く取り上げられているということは、教科書としてはよりいいのではないかなと感じました。

また、作者の言葉として作品に言葉が添えられていたのですが、生徒の作品に、日本文教出版は作品の主題や工夫したポイントがわかり、生徒たちが発想や構想を深めやすくしている。生徒の言葉を載せているということが、教科書として、これから指導していくにはとてもいいように感じました。

そういった意味で、ちょっと迷ってはいたのですが、今回は日本文教出版のほうが多かったのかなと思っております。

また、表紙も芸術作品の取り上げ方が前面にバンと出ているような形で、わかりやすい。そして1ページ目の見開きにも、インパクトのあるような扱い方をされていて、美術に対して興味が持ちやすくなっているのではないかなと感じました。

今回は若干日本文教出版のほうがいいかなと私は感じております。

以上です。

入野教育長

伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

3社ともそれぞれ美しい教科書で、美術を学ぶときにそれぞれとてもよい本だなと思ったのですが、今回の学習指導要領の改訂にもあります、自分でアクティブに考えていくこ

と。これまでになかった視点で見直してみるということを考えると、日本文教出版のものは、目標が書かれているだけではなくて、吹き出しの形で生徒に対して疑問を投げかけるような、「どういう効果が余白にあるだろうか」とか、「構図にどんな効果があるだろうか」とか、そういう投げかけがあって、子どもなりにそれを、なるほどどんな効果だろうと思いつつながら見たときに、「ああ、なるほど、これかな」というふうにわかりやすいような教材が選ばれている。そういった工夫があるなと思いました。

それと同時に、たくさんのいろいろな例が載っているのでも、ちょっと美術が苦手な、思い浮かばないということがあったときにも、参考となるようなアイデアが生まれてくる楽しさもあるのではないかなと思いました。苦手なお子さんにとってはそういう楽しさ、また、得意なお子さんにとっても、さらにいろいろな視点を新たに得ていくということができると思いますので、どういうタイプのお子さんにとっても、楽しく学べるのかなと思いましたので、日本文教出版がよいかなと思いました。

以上です。

入野教育長

それでは小林委員お願いいたします。

小林委員

美術についてはこの3社なのですけれども、まず、教科書の装丁というか、この3社で違いがあるのが、開隆堂出版と光村図書は、1年生それからもう一つは2、3年ということで二分冊になっているのですが、日本文教出版に関しては、2、3年生を上下に分けた三分冊になっています。ただ、ページ数のボリューム的には、そんなに変わらないです。しかし、学習指導要領の流れからすると、三分冊の優位性はそれなりに見出せるのかなと思います。しかしながら、内容が、判断材料としては勝つと思いますので、そういった視点から考えると、それぞれのよさがあるなと感じました。

特に光村図書に関しては、日本の美術作品を数多く入れていると。これは都の資料なんかにもそれが明確に示されていますけれども、日本の文化・伝統を重視するという学習指導要領の根本概念というか、非常に重要な視点からすると、ここは大きな優位性があるのではないかなと思いました。

一方で、開隆堂出版については、鑑賞教材を多く取り入れているということで、その辺は見逃せない大きなポイントで、私は個人的にも鑑賞というのはすごく大きいかなと思います。まさに生涯学習の扉を開くという意味では、その辺のところは実技教科としての美術

の教科書の役割としてはこれは大きいと思いますので、そこには開隆堂出版の優位性があると思いました。

一方、日本文教出版に関しては、大きな特徴は生徒作品が多く入っているということがあります。これは、実際に先生たちにご指導いただく際にかなり有効性を見出せるのではないかなと思いました。

総じて、それぞれに特徴があるわけで、三者三様それぞれ検定教科書であるので、どれを採択しても私はそれなりのメリットがあるかなと思います。現在は日本文教出版を使っているということもありますし、区の選定調査委員会でも安定した評価を得ているのかなと判断しますので、そういう点では3社どれも推したいと思いますが、日本文教出版ということによろしいのかなと考えております。

以上です。

入野教育長

最後に私から。開隆堂出版のほうは、作家の作品ごとに作者の言葉がありまして、非常に興味・関心を引くとともに、発想や表現のヒントとなるかなと思いました。

また一方、日本文教出版は生徒の作品ごとに作者の言葉があって、生徒自身の発想とか構想を深めるのには参考にしやすいのかなと思いますし、光村図書は、「みんなの工夫」というもので、特に生徒の作品ができるまでの表現の流れがわかりやすく、生徒主体の手順になっているかなと思います。こういうふう比べていても、それぞれの特色があって、どの教科書もいい構成になっている、使いやすい構成になっているかなと思いました。

開隆堂出版は、選定調査委員会の報告に出ているように、現代アートや現在注目されている作品などが多いということで、専科の先生である、中学校においては、こういうものも使いやすいのかなと思いましたし、光村図書は1のところ、「美術って何だろう」というところの注釈に「図工とはつながっているの?」とか、「絵を描くのは苦手なんだけど」というような表現で、さらに美術作品ってどう見ればいいのかという表現があって、苦手な子とか、小学校から上がってきた子どもたちには非常に親しみやすいかなと思いました。

日本文教出版については、委員の方々からたくさんお話が出ましたように、私自身も三分冊になっていることとか、1の「美術との出会い」で、「新しい見方や感じ方が生まれるよ」といった表現ですとか、非常にこなれているなという印象を持ちました。

生徒の表現意欲が喚起されて、これからの世界で活躍する子どもたちにはやはり音楽と

同様に、自国のものだけでなく、国外の作品に触れる機会も多いといひかなということから、外国の美術も多く掲載されている開隆堂出版か、生徒の作品が多い日本文教出版かというところで悩みました。子どもたちのこれからを考えていくと、私は開隆堂出版がいいのではないかなという意見を持っております。

それではほかに各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

全体的に日本文教出版というご意見が強いようですが、美術につきましては日本文教出版でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、美術については日本文教出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、美術については日本文教出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは保健体育について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

今回の保健体育については、全体的に見ていたところです。まず教科書を開いて、1ページ目から開いていく。教科書の使い方を見まして、その中で非常におもしろかったのは、東京書籍の目次の後に、運動とスポーツと食事という形で、取り上げていました。そして、この食事ということを見ますと、多くの本で同じように食事を取り上げていたのですけれども、唯一大修館書店の書籍は、最初の開きのところに食事と運動、健康と食事という形で、食事が取り上げられていなかったのが若干気になっていました。

次に、今回の教科書の内容として、東京書籍だけが1年生のスタートのときに、保健から入っていて、健康な生活と疾病の予防という形から導入されている。ほかの本に関しては、体育のほうからアプローチしている。このアプローチの仕方について、私自身どうなのかなという気はしたのですけれども、自分の専門的なところから言うと、まず健康というところから導入するのは、いいかなと感じました。

先ほど1ページ目と言ったのですけれども、一番最初のページを見ますと、どの本も人

体解剖が出ていました。ただ、人体解剖、中学生の教科書としては、学研教育みらいが、少し小学生的な内容なのかなと感じました。中学生では、もうちょっと詳しく欲しい。そういう意味では、東京書籍と大修館書店がよくできていると思いました。

そのほか、自分も多少専門なので、感染症。今回、コロナウイルスの内容で見ましたら、感染症についてよく書かれているのは大修館書店かなと思います。とてもわかりやすく、大修館書店の教科書を改めて見たのですけれども、マスクについてもちゃんと必要性について記載されているのは、唯一この本だけだったと思っております。そういう意味で、感染症に関して、丁寧に書かれていました。

大修館書店は内容が少し多めです。大日本図書は見やすいけれども、内容がちょっと少ないようにも感じます。また、たばこについても大修館書店は非常によく書かれていました。

東京書籍もよく書かれていたのですけれども、東京書籍の中には、応急処置のところを見たときに、今、AEDが常識になっているのですけれども、AEDという言葉が、探さないと出てこない。目立たない。救急のときに、まず最初にAEDを持ってきてくださいというのが今の常識になっているのに、AEDという言葉が出ていないということは、これには私は少し疑問を感じました。また、たばこのところで、東京書籍はよくできているのだけれども、受動喫煙に関して、黒文字で、ちゃんとアピールをしていない。受動喫煙も非常に問題なことなので、きっちりと表現してほしいかなと考えると、今回、東京書籍と迷っていたのですけれども、大修館書店のほうがいいかなと思いました。

私としては、中野区の教科書として使うのであれば、大修館書店のほうが望ましいと考えております。

以上です。

入野教育長

伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

保健も、どの教科書もいろいろ工夫が凝らされていて、なかなか甲乙がつけがたい部分があるのですけれども、私が注目したのは、中学生が読んだときに、自分の日々の生活の中で、応用しやすいような形で、保健に関する情報が書かれているかどうかということ。この点を、1つ着眼点にしてみました。生徒が興味を持ったり、読んだことを実際の生活に使いやすいということを考えたのですけれども、タイトルのつけ方ですとか、まとめ方という

のが、例えば東京書籍と大修館書店は学習の課題という形で、こういうときにはどうしたらいいのでしょうかとか、投げかけるような感じで書かれていて、わかりやすいとは思いました。

東京書籍はそういう点で本当に見やすいですし、情報もコンパクトにまとまっているなと思うのですが、細かい説明、特に私は心理学が専門なので、自己形成とか心の健康といったところを見させていただきました。そうしますと、大修館書店のものは、子どもにとって入りやすい言葉ですとか、例えばストレスについても、受けとめ方を見直したりするだけでなく、信頼できる人や専門家に相談することも大事だったり、その一方で気分転換やリラクゼーションも大事だというふうに、すべきことがコンパクトにとてもわかりやすく書いてあって、先生やスクールカウンセラーへの相談というのも写真にあたりもしますし、子どもに入っていきやすいわかりやすさがあるのではないかなと思いました。

もちろんその他の、心の健康以外の点につきましても、渡邊委員もおっしゃったような、喫煙のところですか、生活習慣病ですか、様々な、発育・発達の部分ですか、それぞれ大修館書店がわかりやすいように思いましたので、わかりやすさ、特に中学生が見たときに、自分の生活と結びつけながら理解をしやすい。また、説明も、わかりやすいところから入るのだけれども、比較的詳しく、資料的な部分も充実しているという意味で、大修館書店がいいのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

それでは次に小林委員お願いいたします。

小林委員

私の見立ても、今、渡邊委員、伊藤委員がご指摘された点とかなり重なる部分がございます。

特に単元別のページの配列ですけれども、東京書籍だけがいわゆる保健分野を先に配置しているという点に関しては、保健の教科書だからそれは当然だろうと思いがちなのですが、子どもの実態からすると、やはり体育理論から入ったほうが、より保健理論の内容が深まるのではないかな。もちろん教科書は最初から使うというよりも、その場、その場でページを適宜教師が選択して、活用していくのですが、順序性というのは無視できないと思います。

そういう点で、東京書籍は全体的にはバランスがとれていて大変いいのですけれども、

配列に関しては、今回少し疑問かなと感じました。

それから、この中で、心の教育に関わることですとか、感染症等については、大修館書店の優位性は見出せるかなと感じたところです。

次に、中身というよりも、見たときの、これは好みの問題なのかもしれないのですが、装丁というか、非常に取り組みやすいというレイアウトでしょうか。非常にわかりやすいもの、これはどちらかという大修理書店が優位性が高いと感じました。

あと、コラムなのですが、このコラムの数というか内容なのですが、これは区の採択資料にも書かれていたのですが、藤井聡太七段の記事は、道徳教育との関連性も図れて非常に使い勝手がいいのではないかと感じたところです。

現在使用している東京書籍に関しても、それなりに優位性があると思いますので、私としては東京書籍と大修館書店、この両社であればいいかなと考えております。

以上です。

入野教育長

それでは田中委員お願いいたします。

田中委員

今、人生 100 年と言われている中で、中学生の時期にスポーツの必要性とか重要性を意識することは非常に大切だと思うので、まずそういった意味から、体育分野に注目してみると、スポーツの必要性とか楽しさとか、あるいはスポーツへの関わり方、そういったところを各社とも取り上げていますが、その中でも東京書籍と大修館書店は生徒にわかりやすく伝わるようにうまくまとめてあると思いました。

特に両社とも、スポーツというのは競技だけではなくて、身体活動として大事なのだということだとか、あるいはいろいろなボランティアとして関わるという関わり方もあるのだということが、各社とも触れているのですけれども、わかりやすいと思いました。

もう一つ、保健のほうで食事の役割ですけれども、東京書籍は口絵のところで運動や、スポーツと食事とか、あるいは食生活と健康、あるいは規則正しい食事と、食事とエネルギーというように、それぞれ丁寧に触れてはいるのですけれども、知識を伝えるような雰囲気を感じました。

一方、大修館書店のほうは、同じように調和のとれた生活の中で、例えば、食事は健康に大きく関わるとか、健康的な食習慣を身につけようとか、より表現が具体的で、生徒にとって心に響く内容になっているのかなと感じます。中学生の食事の話を知ると、食べなくて

はいけないから食べているみたいな思いを持っている生徒が少なくないので、こういった内容が中野の中学生にとっても望ましいのかなという意味で、大修館書店を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

それでは最後に私から。各委員からお話がありましたように、それぞれに特徴があるなと思いますが、編集の仕方は確かに東京書籍だけが保健編からなのですけれども、その中の章立てを見ますと、どちらから始まっても非常に似ていますので、あとはそれぞれの内容の問題で見ていけばいいのかなと私自身は判断しました。

まず、一点は、中野区の子どもたちの定期健康診断の結果を見ますと、裸眼視力の測定が、1.0未滿の割合が国と比べても小中ともに割合が非常に高いということと、さっきの、インターネットによる健康被害のこと。犯罪につながるようなことも含めてなのですけれども、健康被害も取り上げていますので、その辺の記述を比べてみました。

各社それぞれにインターネットに関わるものについては取り上げておまして、特に東京書籍のほうは「インターネットによるトラブル」と、「インターネットの依存症」という形で取り上げていますし、大日本図書のほうはインターネットを利用した犯罪という形で取り上げております。大修館書店は「スマホ首と疲労」、「見直そうスマホ習慣」、「ネットワーク利用犯罪の危険」という形。学研教育みらいも「インターネットと健康」、「インターネットを通じた犯罪被害の防止」。各社それぞれ充実した取り上げ方だなと思いましたけれども、3つの学年に合わせて取り上げている大修館書店のものがいいかなという思いを持ちました。

2点目として、口絵の充実を見たのですけれども、口絵については、大日本図書が非常にページ数を割いて取り上げておまして、特に気になったのは、この中に生活とスマートフォンというのが口絵の中に出てくるのですけれども、中学生が「1日に必要な水分摂取量」ですとか、「運動やスポーツと食事」ということで、これはほかの社も取り上げているのですけれども、試合前、試合当日、試合後というページがあるですとか、なかなかこれはこれで使い勝手がいいかなという感じも受けました。それが口絵としては感じたところでして、3点目は中野区の全校が取り組んでいるがん教育についてのページで、実際には全校が講師を呼べるという形にはなかなかありませんので、担当教師が指導するとして、学習しやすいものはどれかなということで見ました。内容面は渡邊、田中両委員にお聞

きしないと私はわからないところもあるのですけれども、学習しやすいものということで見たところ、私は東京書籍、大修館書店、大日本図書かなという感じがありまして、大修館書店については、コラムとしてがん経験者の話が載っているということですか、免疫とがん治療というページもなかなかと思いますし、6ページをそれに使っているというのも非常にわかりやすいかなと思います。

最終的には、いろいろな観点で見てきましたけれども、大修館書店と東京書籍がよいかなということを感じております。

以上でございます。

ほかに各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは全体的に大修館書店と東京書籍のお話が出ておりましたけれども、大修館書店ということでまとまるかと思えます。

保健体育については大修館書店でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、保健体育については大修館書店を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、保健体育については大修館書店を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは技術について協議を行います。

各委員から順に御意見を伺いたいと思います。

まず伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

これもまた本当に甲乙がつけがたいというか、それぞれ大事なことがきちんと書かれているなと思ったのですけれども、まずは生徒が見たときにわかりやすい。それはわかりやすい写真が掲載されているとか、例がたくさん載っているとか、そういうわかりやすさということを考えたときに、開隆堂出版と東京書籍がわかりやすいのかなと思いました。

教育図書は、写真はわかりやすいのかなと思ったのですけれども、もしかしたらちょっと説明が、図が細かかったりしてわかりにくい部分が、子どもにとってはあるのかもしれないと思いました。

それに対して開隆堂出版と東京書籍は、思い切ってシンプルにするところはシンプルに

していただけているので、子どもたちにとって入りやすいというか、全体を理解してから、特に木工のところの製図ですとか、そういったものもざっくりしたところから入れる、イメージがしやすいという部分があると思いました。

また、主体的な学びということを考えたときには、「話し合ってみよう」ですとか、「こういうことはどうなっているのだろうか」というような、投げかけのような部分については、東京書籍が優れていると思っております、わかりやすさの点と、テーマ。「丈夫な製品をつくるためにはどうしたらいいだろう」とか、何かテーマを持って子どもが、「なるほど、それについて考えてみよう」と思えるような、そういう投げかけ、問題点の喚起という点で、東京書籍が優れていると思いました。

以上です。

入野教育長

次に小林委員お願いいたします。

小林委員

技術・家庭について、それぞれ3社出ています。ページ総数としては、分量として同じなのですけれども、教育図書に関して、非常に内容が盛りだくさんという状況になっているようです。

区の資料などでも、別冊がついていたり、そういう点でいいという評価もあるのですが、一方で難しさを感じると思います。やはり中学段階の場合に、どの程度の内容、分量かという状況を考えると、この点については、東京書籍、開隆堂出版に優位性があると判断をしました。

それから、内容ということなのですけれども、これに関しては都の資料などを見ますと、それぞれに特異性があります。特に「生活や社会を支える技術」に関するページ数の割合というのは、開隆堂出版が取り上げている比率も多くて、内容も豊富になっているということだと思います。

しかしながら、東京書籍に関しては、「社会の発展と技術に関する内容」に関しては非常に重点がある。どちらが大事かどうかということは、私も専門外でありますので言及できませんが、これはどちらの力点を優先させるかという問題かなと思います。

もう一つ、東京書籍は勤労観とか職業観に関する内容をかなり豊富に取り上げているので、キャリア教育の視点などからも非常によいものに仕上がっていると思っています。

ただし、今回の学習指導要領の技術・家庭科の目標の3番目に、よりよい社会の実現や、

持続可能な社会の構築という部分が見えています。その内容を見てみますと、持続可能な社会づくりの扱いということで、SDGsに関してということなのですが、これについては教育図書は非常に扱いも少ないということがあります。一方で、内容的には開隆堂出版がこの部分は非常に丁寧に扱っています。現代の社会の大きなニーズに答えているということでは、東京書籍と開隆堂出版に関しては、それぞれの特徴があって、それぞれによいものがあるかと思えます。そういう点で、現在使用していることを考えたときに、開隆堂出版に一定の優位性があるかなと思えますけれども、この辺のところは各委員の御意見も含めて判断したほうがいいのかと考えております。

以上です。

入野教育長

次に田中委員お願いいたします。

田中委員

今回の新しい分野の編成で、情報の技術の中にプログラミングや情報モラルが組み入れられましたけれども、これからの社会、こうした領域を上手に利用できるスキルは必要なことではないかなと思えます。

そういう意味では、開隆堂出版は表紙のイラストも、こういう点をあらわして、教科書のタイトルも「テクノロジーに希望をのせて」となっていて、この分野を大事にしているということが感じ取れました。

また、この領域では、選定調査委員会報告では、教育図書の内容が、最新の情報であったりして、充実しているということが報告されておりました。見てみると、丁寧に書かれているのですが、逆の見方をすると、生徒にとってやや難しさもあるのかなと感じました。例えば第2章で、双方向性のあるコンテンツの情報ということがありましたけれども、その辺まで中学生がうまく身につけられるのかどうかという点が、ちょっと危惧された点です。

一方、開隆堂出版は実習例が非常に上手につくられていて、生徒が興味を持って、実生活で役立つ技術を身につけやすいのではないかなと感じました。例えばのこぎりの使い方も、開隆堂出版は実物が、いい方向から写真が撮られていて、実際の使い方がわかりやすいという点もいいかなと感じました。また開隆堂出版はタイトルが明確で、例えばエネルギー変換のところでは、身の回りにあるエネルギー変換の技術としてドライヤーとかを取り上げたりして、全体的に問題解決型の流れで構成されている点は、非常にいい点かなと思

ました。

こういったことも含めて、全体的に開隆堂出版がよいのかなと感じたところです。

以上です。

入野教育長

それでは渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

技術に関しては、どの教科書も大差つけがたいなと感じました。

その中で、まずパッと本を開いて一番思うことは、教育図書が非常に見やすいこと。これは文字が大きいからか、そういったところに工夫がしてあって、パッと開いたときに非常に見やすいというのが教育図書。技術の本とか、こういうものに関しては、大切なことなのかもしれないと感じました。

ただ、教育図書だけ分冊を持っている。教科書としてどうかというところは実際ありまして、個人的には、今までの教科書を見てきたときに、分冊というものを私はあまり評価していないのが事実なので、やはり1冊にしたほうがよかったかなと思っています。

東京書籍は、非常にわかりやすく書いてありますし、工具の使い方は、比較的に見やすく書かれていますけれども、開隆堂出版がこれも非常によく書かれていまして、材料によってそれぞれ異なるページで記載してある点は、わかりやすく表現しているという意味では、開隆堂出版のほうが安全に使っていくには優れている。開隆堂出版の教科書は非常にシンプルにまとまっているのかなと思いました。

全体的に見て、これも非常に甲乙つけがたい教科書であったのですが、今回、私は、技術に関しては開隆堂出版の教科書がよいと感じました。今回は開隆堂出版を推薦したいと思っています。

以上です。

入野教育長

最後に私からは1点お話ししたいと思います。四つの指導内容のバランスがいいなと感じたのは東京書籍でございます。これは都の資料からみてもそうかなと思います。情報技術にややウエートがあるのが教育図書。「材料と加工の技術」という部分と、「情報の技術」という部分にウエートがあるのが開隆堂出版という特徴があると思いました。

判断の材料は非常に難しいのですが、私としては開隆堂出版が、小学校との接続性が高いプログラム言語を使用しているというご意見もございましたし、内容的には私も

よく理解がしやすかった東京書籍と開隆堂出版がよいと思います。

開隆堂出版は、各委員が今までお話されたところで評価があるなと思いましたけれども、新しい主体的で対話的な学習を展開しやすい構成と指導内容がバランスがとれているという面では、東京書籍と思います。私としては家庭のほうと併せて最終的に判断をしたいと考えております。

休憩いたします。

午後 7 時 39 分休憩

午後 7 時 40 分再開

入野教育長

それでは再開いたします。

ほかに各委員からご発言はございませんでしょうか。

それでは意見が出ているところですが、各委員からのご意見を聞いていても、開隆堂出版と東京書籍ということでまとめられるように思います。

技術につきましても、次の家庭と同一社のものもいい。今までも同一社のものを使っているという経緯もございますので、家庭を協議してから、採択候補を決めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ではそのようにさせていただきます。

それでは家庭について、協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

それぞれやはり特徴があって迷うのですが、例えば教育図書は幼児の話のところなども、幼児の体の発達とか、子どもの発達を丁寧に見やすく書いてくださっていると思います。けれども、調理ですとか、全体的に見ていると、見やすさとか、ポイントがわかりやすいかというようなことを考えたときに、開隆堂出版と東京書籍が、ポイントがつかみやすいということがあったと思います。

開隆堂出版と東京書籍なのですけれども、特に開隆堂出版は、家庭を支える社会ですとか、子どもの成長と地域ですとか、家庭生活と地域の関わりという形で、多様な人々が暮ら

す地域ですとか、持続可能な社会ということも含めて、家庭だけでなく、その存立の基盤である社会や、地域の中でみんなが生活しているというような広がりのある捉え方がされていました。特に日本の子どもは地域ということに関心を向けにくいということが幾つかの研究からも言われていたりすると思いますので、小さいときからシチズンシップということも含めて、地域を意識できるという意味で、開隆堂出版は優れていると思いました。

その他の被服のところですか、調理のところもとてもわかりやすくまとまっているので、見やすいですし、ポイントがわかりやすいと思っています。

若干ミシンの使い方のところが見やすさがどうかと思うところもあるのですが、全体的に見やすいですし、地域やいろいろ広がりのある先進的な観点も含まれていると思います。

それに比べまして、東京書籍のほうはとても見やすいのですが、特に調理のところなどもとてもわかりやすいと思うのですが、性役割とか家庭の像を描くときに、やや伝統的な価値観というのが暗黙裡に表現されている部分があるかと思ひまして、そういった点では多様性とか、性役割とか、いろんなことを考えたときに、開隆堂出版のほうが多様な価値観に開かれている部分が自然と感じられるのかなと思いましたので、家庭科は開隆堂出版がよいと思いました。

以上です。

入野教育長

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

家庭分野に関しても、技術と同様に、同じ3社が発行されているわけですが、教育図書に関しては、ボリューム的にも様々なことがよく書かれているのですが、教科書として扱う場合にどうなのかというのは技術分野とも同じ考えで、バランス的にも東京書籍と開隆堂出版の2社に優位性があると感じました。

技術分野でもお話をした技術・家庭科の目標の中の3番目のよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築という視点から見ると、教育図書はその部分が弱いと感じます。東京書籍と開隆堂出版は両社それなりの取り上げをしているのですが、特に開隆堂出版は、ワーク・ライフ・バランスについてしっかり取り上げているという印象がありました。

しかしながら東京書籍も非常に内容的にはしっかりと広範囲にバランスよく押さえられているので、それなりの優位性があると感じました。

全体的に、この両社を比較すると、もう1点、安全・衛生面に関しての内容なのですけれども、この部分に関しては若干東京書籍が少ないというのが気になります。しかしながら安全・衛生に特化した内容に関しては少ないのですけれども、全編にわたって、それは配慮されていると見受けられますので、大きなマイナスではないかと思いますが、基準としては気になる部分なのかもしれません。

一方、キャリア教育の視点ということに関しては、先ほどお話ししたようなワーク・ライフ・バランスも重要なのですけれども、東京書籍はしっかりと取り上げられているということで、この家庭分野に関しても、どちらとはっきりと申し上げにくい部分があって、東京書籍、開隆堂出版のこの両社で、あとは委員方の全体の意向に沿って決めていただけるとありがたいなと思っています。

以上です。

入野教育長

次に田中委員をお願いします。

田中委員

まず、単元構成では、東京書籍は先に衣食住の生活、消費生活・環境、それから家族・家庭生活となっている部分がほかの2社とは異なって特徴的で、この点については、自立に関する内容を学んでから、共に生きるということを学ぶというところは学びやすい点かなと思いました。

また、SDGsについては3社とも取り上げているのですけれども、内容的には東京書籍と開隆堂出版が具体的で充実しているかと思いました。特に開隆堂出版は「食べ残す理由は何ですか」という、非常に具体的な表現から入っていて、生徒に興味を持たせる工夫ができていたと思います。

もう一つ、実習のぶた肉のしょうが焼きを比べてみると、見開き1ページで、全体の流れがわかりやすく、しかも時間が書かれているのが東京書籍と開隆堂出版で、わかりやすいと思いました。

開隆堂出版は、生徒が実際に楽しそうに調理をしている写真があったり、それから見出しも「ますます好きになる肉の調理」とか、生徒が興味を持ちやすいような、そういった形、記載がされていること。それからQ&Aで「なぜフライパンを熱くしてから油を入れるの」とか、考えながらつくることで、ほかの料理にも応用できるスキルが身につくかなと感じました。

総合的に見て、そういったところから、家庭については開隆堂出版を推薦したいと思えます。

以上です。

入野教育長

次に渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

先ほど田中委員も言われていたのですけれども、新学習指導要領では、平成 29 年度から三つの分野に分ける形に示されています。

資料の内容から見ますと、それぞれの 3 社において、少し特徴があって、家族・家庭生活といったところについては大体分量的に同じに書いてあるのですけれども、衣食住の生活と消費生活・環境については、東京書籍が、衣食住の生活に重きを置いて、分量が多くなっています。そういった資料に基づいて、教科書を見てみますと、確かに田中委員が言われたように、しょうが焼きとか、料理のところを見ますと、やはり東京書籍がしっかりと書かれています。逆に言うと、東京書籍ぐらい書いていないと、初めての人は料理をつくれなかなと若干思ったり、感じたりはします。

伊藤委員が言われたように、ミシンの扱い方についても、東京書籍はしっかりと書かれてありました。

その点、開隆堂出版も次によく書かれていて、教育図書はその両社に挟まれるとちょっと内容的には簡略化しているのではないかと感じました。

そういった点から見ますと、開隆堂出版と東京書籍、どちらかの教科書がよいのではないかと感じました。先ほど申し上げたように、分量に若干違いがあるのと、田中委員が言われたように、領域の配列が衣食住から並べられているという配列の仕方。これが、順番が異なっているのですけれども、実際学習をするに当たって、どちらのほう望ましいのかは私のほうでは判断しかねるところがあって、専門の先生方のご意見を聞いて、また先ほど教育長のほうからお話がありましたように、技術と家庭の両方を、教科書を分けるというのが学习上、授業の展開上支障を来す可能性があるとか、よりやりやすいということと考えれば、その辺も考慮に入れていただければと思います。私は今回東京書籍のほうよかったのですけれども、そういった意味を踏まえますと、開隆堂出版か東京書籍で選んでいただければ問題はないのかなと感じております。

以上です。

入野教育長

休憩いたします。

午後 7 時 55 分休憩

午後 8 時 04 分再開

入野教育長

それでは会議を再開いたします。

最後に私の意見を申し上げます。

家庭分野の指導内容で言いますと、Aが「家族・家庭生活」で、Bが「衣食住の生活」、Cが「消費生活と環境」ということで、3社とも前の学習指導要領では二つであった内容を一つにしたBにウエートがあるという傾向がありました。そういう面では似ていると思えますけれども、他の委員からもお話がありましたように、単元構成からは東京書籍が、いわゆる「衣食住の生活」が先になっているということで、ほかの社は家族・家庭生活が先で、Cの消費生活が後になるという順になっているというところが特徴的かなと思います。これをどう判断するかというのはやはり難しいところかなと考えました。

さらに、都の資料から見ても、安全・衛生に関する内容を取り上げている箇所が多いと感じたのは開隆堂出版と教育図書であったかと思えますし、東京書籍のほうは、やはりお話がありましたように、実物大の写真とか、実習の手順もわかりやすいというところがあると思えます。

私としては最終的には東京書籍と開隆堂出版の両社のうちで選んでいけたらなと考えております。

ほかに各委員から発言は、特にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

先ほどお話をいたしましたように、技術と家庭については、同一社のもので選んでまいりたいと思います。そうしますと、技術についても家庭についても東京書籍と開隆堂出版が候補に挙がっております。技術は開隆堂出版が強いようでしたが、家庭についてはほぼ同意見といたしますか、どちらでもいいのではないかという意見も多いように思います。

そこで、他に意見がここでないようでしたら、技術の際に小林委員からもお話がありましたように、現在使っている教科書が一定の優位性があるということで、現在と同じ社の開隆堂出版のほうを採択候補とするということではいかがでしょうか。

それではここでお諮りいたします。

技術と家庭については、ただいまの協議の結果、開隆堂出版のものを採択候補とするこ

とでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、技術と家庭については開隆堂出版のものを採択候補とすることに決定いたしました。

休憩いたします。

午後 8 時 08 分休憩

午後 8 時 08 分再開

入野教育長

再開いたします。

それでは英語について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず小林委員お願いいたします。

小林委員

英語に関しては、小学校で外国語活動が定着し、また教科の英語が誕生してきたということから、新たな学びの展開というのが一層求められているのではないかと思います。

一方で、英語は実技教科的な色彩が非常に強いので、教科書によってかなり毎日の指導に影響力を及ぼす重要な教材だと考えます。

そういう点で、英語の学ぶべき五つの領域、聞くこと、読むこと、話すこと、話すことというのはお互いのコミュニケーション的なやりとりと、発表、それから書くこと。この五つに都の資料などは分類をしているのですが、この中で話すことの「やりとり」に関しては、開隆堂出版の活動数が非常に高いというのがあります。もちろんほかの部分もそれぞれのよさがあるのですけれども、この点は非常に大きく目立つところではないかなと思っています。

特に、思考力、表現力、判断力の育成というものを重視したときに、話すというのは一方的にするというよりも、やりとりをすることが非常に重要で、そこに力を入れているというのも大きなポイントかなと思っています。

それから、一方区の資料はより現場に近いということで、幾つか見てみますと、全体的に光村図書の英語が、評価が高いのではないかという印象を受けました。紙面構成または登場人物が全学年で統一されているストーリー性だとか、言ってみれば授業のしやすさとい

う、新たな視点の導入という点で、光村図書の英語の教科書もかなり評価されているので、この点は大きな候補になるかと思えます。

さらに、東京書籍は、やはり総合的に見て非常にバランスのよいつくり方をされていて、安心して使えるという状況がこの資料からも読み取れます。総じて他の会社にもそれぞれの特徴がありますけれども、開隆堂出版そして光村図書、それから東京書籍。この三つは有力な候補になるかと思えます。

そういう点で判断すると、やはり前回の採択では、中学校では新たに開隆堂出版で指導を始めておりますので、今回についても現行の強みという優位性を考えたときに、開隆堂出版、光村図書、東京書籍という順番で考えてはどうかと思っております。

以上です。

入野教育長

それでは次に田中委員お願いいたします。

田中委員

外国語ですけれども、学習指導要領改訂の趣旨の一つである習得した英語の知識を活用して、実際のコミュニケーションに生かせる力を身につけるという点から、6社の中では総合的に開隆堂出版と光村図書が望ましいのかなと考えました。

両社ともやりとりとか、即興性を意識した言語活動が充実していること。また、ネイティブランゲージの動画を見ることのできるウォッチが用意されていて、生徒が自主学習でもこういった言語活動をする際に役立つのではないかと思われました。

開隆堂出版は小学校との連続性にも配慮がなされて、各章ごとに英語のしくみということで、文法のまとめがわかりやすく表示されている点や、構成も漫画形式の対話文で導入して、「Think」「Retell」「Interact」ということで、最終的には自分を表現するというふう構成されている点が、生徒は学びやすいのではないかと考えました。

また、光村図書は「Here We Go!」というタイトルがあるように、各単元が、例えば「世界のどこかへ行ってみよう」とか、「昼食はどうしているの」といった日常的な話題を英語で考えるところから始まる構成は、「役立つよ」という視点でも、生徒に興味を持って学んでもらえるのかなと思いました。

区の調査報告の中で、表現活動で活用できる編集あるいは表現活動を豊かにする素材が豊富であるといった評価がこの2社にあって、使える英語を中野の生徒に身につけてもら

いたいという点から、この2社が望ましいと思われましたけれども、最初に述べたように基本的な構成に繰り返し触れながら、定着を図るという点や、全体のバランスなどから今回は開隆堂出版による学びが英語力向上に期待できるのではないかと考えました。

以上です。

入野教育長

次に渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

今回教科書選びの中で、一番悩んだと思っても過言ではないと思います。外国語の教科書にはいろいろと悩みました。

実際に、まず最初に大きさで言うと、東京書籍だけが、一つだけ大きな教科書を使っている。これは明らかに見た目で違ったものになります。字がそんなに大きいということではないのですけれども、ちょっと大きい分、紙面構成に優位性はありました。中学校の教科書の大きさとしては、個人的にはあまり好きではないということはありませんけれども、その大きさによる優位性があると感じました。

そして、今回の改訂の趣旨等を再度確認いたしました。今まではやはり語彙や文法を重視した授業、教育が行われていたけれども、今後は言語活動が適切に行われる授業の形と、外国語で伝える言語活動を重視して、言語活動の実質化を図っています。やはり言語に対して、非常に、伝達とかコミュニケーション、そういったものに重きが置かれている。そう見ていくと、いただいた資料の中で、教科書によって、活動数に違いがあることがわかりました。

東京書籍は聞くことが少なく、読むことが多い。そして、発表することが多いという、分量としてつくられているようです。

この6社の中では、東京書籍と開隆堂出版と三省堂が、特に私の中では比較の対象となりました。

そういった点では、開隆堂出版は聞くことが多くて、読むことが少ない。それで発表が少ない。三省堂は聞くことと読むこと、発表、それぞれ二社の中間の分量となっていました。そういった意味で、今回の改訂に沿った趣旨で考えると、東京書籍の配分がもしかしたらいいのかなと感じました。

使われている文法その他等に、学年によって順番が異なるということがありました。それぞれの、受け身の文章については、東京書籍とか開隆堂出版は2年生で扱っているけれ

ども、三省堂は3年生で扱うとか、未来形のwillは東京書籍では2年生で、開隆堂出版も2年生で扱ったけれども、三省堂は1年生で扱っているなど。これはどの学年で扱おうと、実際には大きな差はないのかもしれないのですけれども、小学校のときから英語教育が加わってきて、そしてそのつながりを考えると、こういった文法その他等の流れが、順序が異なるというのは意外に授業がやりにくくなるのではないかと思います。そうやって見ると、中野区では東京書籍の教科書を小学生は使っているということを考えると、今回は中野区の教育においては、東京書籍の教科書を使うのが一番学習的にはスムーズに進むのではないかなと思いました。

また、今回の選定調査委員会の資料の中で、私が重要視した、自分で学習できる、自主学習ができるコンテンツがどれだけ含まれているかということについては、東京書籍と三省堂がよいということが書かれていました。その点からも東京書籍が今回は、私としてはいいのではないかなと考えます。

以上です。

入野教育長

次に伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

委員方もおっしゃるように、今回は小学校で英語の教科化があつて、より使える英語、4技能という、あるいは5技能と言われるようなことがありますので、そういった観点で考えたときに、渡邊委員のおっしゃったことと反対なのですけれども、英語の特徴である助詞が、willとかmustとか、そういった助詞が英語では実はとても大きな意味を持っていて、そういったことは日本語とずいぶん違っているのかなと思うのですけれども、そうした英語の特徴的なものが、実際に英語を使おうとしたときに、大事になってくる助詞というのが、早い段階で出てくる教科書と思ったときに、三省堂と教育出版が早い時期から出てくるので、この二つは有力な候補かなと思いました。

教育出版のほうは、見やすいですし、文法の説明が結構詳しく出ているので、自習をしたときに、あるいは後から振り返って文法を整理したりというときに、わかりやすいのかと思いました。英語活動から入って、いろいろ体験的に学ぶ中で、日本語と比較しながら、文法事項を整理するということを考えると、教育出版のものはやりやすさ、わかりやすさ、自習のしやすさがあるのではないかなと思いました。

三省堂も、見てみると、三省堂のほう教科書がシンプルな感じになっていて、説明はあ

まりないのですけれども、場面が思い浮かびやすい。イラストが美しかったり、学ぶわくわく感みたいな、楽しさみたいなものにも配慮がされていると思ったので、三省堂もよいのではないかと、個人的には思いました。

光村図書も、導入はすごくおもしろいというか、話題の持っていく方というのでしょうか。部活動を見学しようとか、夏休みを過ごそうとか、世界の中学生とか、導入の仕方がおもしろくて、いろいろなことに興味が湧くようになっていたと思いますし、その場でスピーキングするためのツールがあったり、外国に興味を持ったり、英語を通して誰かとコミュニケーションをするということについて、魅力を伝えているというところがあるのかなと思いました。

そういうふうに個人的には思うのですが、教育出版の場合、ちょっと内容がたくさんで、逆にそういった文法の解説などが難しいかもしれないということもあるので、他の委員のご意見も伺いたい点だなと思いました。わかりやすさということだけを考えると、開隆堂出版も、とてもシンプルで、要点が見やすくまとまっていて、無理なく要点を理解できるというバランスのよさというのでしょうか。難しいことから入るということでもなく、かといってやさし過ぎるというか、文法事項の整理が難しいということでもなく、全体的にバランスがとれているという点では、開隆堂出版も優れた点があると思いました。

以上です。

入野教育長

私の意見を申し上げます。

るる委員方からご意見ありましたが、私は中野区の実態ということの視点で考えてみました。

平成31年度の中野区の学力にかかわる調査の結果を見ますと、中学校2年生は表現の力、理解力、言語や文化についての知識や理解、ともに目標とする達成率を下回っている状況があつて、その分析においては、特に一般動詞の過去形の語法とか、語形の理解とか、単語を正しく書く問題の正答率が低かったという分析をしております。

これは3年生でも同じ傾向があるということで、具体的な場面や状況に合った適切な表現を考えたり、話したりする言語活動の充実をしていくことが必要なのではないかとということとか、英語を書く活動を充実していくことが必要ではないか、英語による言語活動を中心にした授業が必要ではないかということで報告書にまとめております。そこからしていきますと、都の資料によりますと、書くことに焦点を置いた活動にウエートを置いてい

ると感じられるのは東京書籍。聞くことにウエートを置いていると感じられるのは東京書籍。聞くことにウエートを置いているというのが三省堂や光村図書。読むことは教育出版。話すことには開隆堂出版と啓林館。開隆堂出版は取り扱う語数も多いという状況がありました。

そういうことと、一般動詞過去形というものは、どの社も1年生で扱っていること。先ほどお話がありましたように、扱われる文とか、文の構造とか、文法事項によっては学年に違いがあるというのが今回よくわかる調査がありましたけれども、そういう面では、これについてはどの社も1年生のときにしっかりとやっておく必要があるのだろうなというのが中野の実態だろうなと思いました。

学校意見、調査研究資料等、教科書の特徴に関する様々な意見が出ておまして、判断しかねるところだったのですけれども、まず1点、中野の実態から言うと、東京書籍とそれから開隆堂出版。さらにデジタルコンテンツで自学自習がしやすいという三省堂、これがよろしいのかなと思います。

付け加えますと、生徒の意見には、両極端があるのですけれども、ある意味英検並みの問題が欲しいとか、単語がたくさん出ているほうが良いというような意見があったのですけれども、そういう面で、発展的な内容という形に捉えれば東京書籍かなということを行いました。それから、中野が交流先にニュージーランドを持っておりますので、ニュージーランドが取り上げられているかなという様子を見てみますと、これも東京書籍にありました。オーストラリアを取り上げているのは開隆堂出版と三省堂ということで、最終的には開隆堂出版、東京書籍、三省堂がいいかなと私自身は感じたところでございます。

ほかに、各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしますと、ご発言の内容をまとめてみますと、英語については、開隆堂出版、東京書籍、光村図書、三省堂、教育出版という名前が挙がったかなと思ひまして、その中でも開隆堂出版と東京書籍が同じような状況かなと思います。その中でも開隆堂出版が一番候補としてのご意見が強かったように感じます。

それで、英語につきましては開隆堂出版でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、英語については開隆堂出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、英語については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは道徳について協議を行います。

各委員から順にご意見をいただきたいと思います。

まず田中委員お願いいたします。

田中委員

中学校の道徳は、2019年に教科化されてまだ日が浅く、できれば現行と同じ出版社の教科書を継続することが、生徒にとって学びやすく、また教員にとっても教えやすいのではないかなとまず考えました。

また、東京書籍は学校意見で、全ての教材に「考えよう」が設けられ、その問いが焦点化し過ぎていないため、意見が出やすいなど、使いやすさを評価するコメントも多く、望ましいのかなと思いました。

また、日本文教出版も、漫画やイラストをうまく活用している点が、生徒意見にある、親しみやすく興味を持ったりすることに役立つのではないかなと思いました。他社と比較して、集団や社会とのつながりが他社よりも重点が置かれていることも、これからの社会でよりよく生きるために大切なことだと思います。取扱いに煩雑さがという懸念はありますけれども、別冊ノートは白紙の部分が多く、資料を貼りつけたり、あるいは白紙の部分にプロットがされていて、文字だけでなく図形などで自分の考えをまとめたりするという意味では、扱いやすいのではないかなと感じました。

一方東京書籍は、最初の3ページ、4ページで、オリエンテーリングとして授業の流れを体験できるところから始まっているなど、使いやすい構成という意味では優れていると思いました。また、生命尊重に特化したユニットが各学年に設けてあり、今の生徒たちにぜひ考えてほしいテーマを、わかりやすく構成してある点からも、また、中野の中学生の教科書として推薦したいと思います。要望書でも、人間の生命と尊厳を学ぶことが大切という意見が見られ、こういう点も踏まえて、今回は東京書籍を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

次に渡邊委員お願いいたします。

渡邊委員

道徳教育については難しい内容で、この教科書の中で差をつけるのは非常にこれも困難でありました。

また、教科書も7社出ているということで、それぞれの特徴が出ているのかと見ますと、実際には内容構成については、ほとんどが今回は同じような構成で組まれていて、そういった点では甲乙つけがたいなと思っております。

その中で、分冊、ノートを設けているものがあるのですが、道徳の授業の中にノートという考え方はどうなのかなと若干感じました。そういった意味では、日本文教出版と、廣済堂あかつきについて、分冊形式の道徳ノートの併用ということについては、自由度がかえって下がってしまうのではないかと思います、今回は最初の時点で除かせていただいております。

そのほかの教科書については、甲乙つけがたいということをおっしゃるを得ないのですが、テーマは、東京書籍が多くのジャンルを取り上げているのではないかなと感じました。そして、内容も非常にわかりやすい題材が多い気もいたします。若干文章が長いように思いましたが、ほかの教科書と大きな差は見られませんでした。教科書づくりとして、学習を進めていく上には、非常にわかりやすい進め方を用いていて、とても授業がやりやすいのかなと思っております。

最後に、ページにホワイトボードと心情円というのがついていまして、これについては特徴的で、今、これはちょっと注目されているものなので、非常によいと思います。東京書籍は道徳として、標準的な教科書づくりができていて、そういう意味で、今回は道徳については東京書籍がよいのではないかなと感じました。

以上です。

入野教育長

次に伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員

道徳もとても教科書の数が多くて、比べることが難しい点があるのですが、渡邊委員もおっしゃったように、私が注目したのは、子どもたちが自分の考えを表明しやすく、またほかの人の意見も聞いて、いろいろなことが考えられる。やはり中学生は発達段階としても自分の気持ちを表現することが必ずしも得意ではない時期だと思いますし、また、自意識や様々な点でも、自分の気持ちを言っているものかどうなのかという逡巡も大きいころだと思いますので、そういう、発達段階であっても、自分のこととしていろいろな価値観に

ついて吟味できて、少しでも自分の気持ちを表現しやすく、ほかの人と考えを比べ合いながら多様な価値観に開かれていくというようなことができやすい教科書ということを考えました。

そう考えると、やはりノートになっていると、個人的な作業みたいなことにもなってしまうし、どうしても、それがあると授業の進め方が縛られてしまうということもあるようなので、そういうものでないものがないかなと思いました。

各社とも、各教材のところの後に、考えたり話し合ったりしてみようということで、投げかけがあるのですけれども、先ほど申しましたような観点から、その教材について、主人公はどう思ったのだろうかというような、単にその教材にとどまるようなクエスチョンは、国語の文章の読み取りみたいな形になってしまって、そこから自分たちの生活や、自分たちの行動ということに結びつきにくい面があるのかなと思いましたので、登場人物の思いや、その作品の中での問いかけというものととどまっている教科書は、ちょっとどうかなと思いました。

そのように考えていくと、絞られてきて、小学校の道徳の教科書でも同じだったのですが、東京書籍のものは、その教材についての考えを問うだけではなくて、自分を見つめようという形で、その教材を踏まえて、自分は自分の生活の、今のリアルな生活の中で、どういうふうにやっていきたいのか、いくことが必要なのか、自分の生活を振り返ろうという、二つのクエスチョンがついている。さらに、心情円で賛成か反対かを、二つの円の割合であらわして、二つの円を組み合わせることで、円グラフのようにして反対と賛成を示せる。あるいは別の感情でもいいと思うのですが、拮抗する感情について、1か0ではなくて、円グラフのようにして、何パーセントぐらい賛成なんだけど、何パーセントぐらい反対ということが、感覚的にもわかりやすく表現できるというような教材も東京書籍にはついていて、中学生に押しつけ的に、正しいことを読み取って、正しい回答をしなさいという方向づけではなくて、教材を踏まえて自分がどんなふうに考える、自分はどう考えるのだろうかということを、自分事として考えて、なおかつそれも賛成、反対というような1か0ではなくて、賛成の気持ちもあるけど反対の思いもあるという、そういう中学生らしい、まだまだ考えがまとまらない中で、単純に0か1にはしない。いろいろな思いを個人の中でも抱えやすい発達段階として、心情円という形で、自然な形で意見を表明できるという点でも、東京書籍が優れているのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

次に小林委員お願いいたします。

小林委員

道徳については教科化されて2回目の採択になるわけですがけれども、内容的にはご案内のとおり、学習指導要領の22の項目をどのように配列し、そして魅力ある内容の教材を配置していくかということになるかと思えます。

そういう点では、内容こそ決まっていますけれども、掲載されている一つ一つの教材そのものは、各社で相当な違いがある。これは当たり前の話ですがけれども、そういう点で、まず基本的なことを押さえると、既にもう各委員からもお話がありましたけれども、内容的な部分のバランスを見ると、どの会社もそれなりのバランスを考えているのですが、やはり生命尊重という視点では東京書籍がしっかりと数、内容ともに、充実していると思えます。この点は非常に大きなポイントになるかなと思えます。

前回の採択に比べると、やや中身が全社統一されてきているかなという印象を私は持っているのです。見方はいろいろなのですがけれども。そういう点では、本区が今まで採用していた東京書籍は、いい意味でオーソドックスで、現場の先生方は使いやすいのではないかなと思えます。これは、区の報告書の中にもそういった文言はありますし、安定感があるかなと思えます。

分冊のノートに関してなのですけれども、2社がそうした分冊ノートがあるのですが、やはりかなり邪魔にならないように、邪魔にとというのは、これを使わなければならないというような負担感を強いるようなものにならないように、配慮をしているというのはわかるのですが、そうは言うものの、教科書の扱いとして存在してしまうと、教科書というのは一定の使用義務はあるわけですので、別冊ノートがついているものに関しては、やはり積極的にはなれないかなと思えます。

日本文教出版については、教材の内容とか、様々非常にバランスがよくて、いいものに仕上がっているのですが、この道徳ノートに関しては、ちょっと私は個人的には残念かなと思っています。

それから、これは区の採択資料の中にも入っているのですが、例えば小学校で定番の教材になっている「手品師」というのがありますが、そういうものをまた中学校で載せること。例えば「はしのうえのおおかみ」というような、小学校1年生が使うような定番の教材をまた中学校で使うこと。これは、私は「特別の教科 道徳」を考えたときに、非常に

いい発想かなと思っているのです。それを実際やっているのは東京書籍、光村図書。この2社は非常に印象的で、そういったものをたくみに配置しています。

ですから、東京書籍の場合には、オーソドックスとはいうものの、新しい先鋭的な取組もしっかり配置されているので、バランス的にもいいのかなと思います。

それから、これまで使っていたという積み上げという部分も私は非常に重要かと思います。そういう点で、総合的に、東京書籍のものが優位性があるという判断をしています。

以上です。

入野教育長

私の意見を申し上げます。

Aの「主として自分自身に関すること」、「人との関わりに関すること」のB、Cの「集団や社会との関わりに関すること」、Dの「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の中で、Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」の教材の配当がどの社も多いという、この傾向につきましては、中野区としても中学生に大事にしてほしいこと、一人ひとりが自立しながらも地域社会の一員として生活するということを目指しておりますので、大事にしてほしい内容項目であるかなと思います。

そして、一つずつを見てみますと、光村図書は、教材によっては「深めたいむ」というものがありまして、より多面的な、多角的な考えにアプローチする内容となっているところがいいと思いますし、学研教育みらい社については、ピックアップされている人物が、歴史上の人物から現役のスポーツ選手まで、生徒にとっても、いいのではないかなと思いましたが、調査研究の資料を見ますと、教師としても取り上げてみたい人物があるというような意見もございました。

廣済堂あかつきについては、「アイツ」シリーズというのが、3年間系統性がある教材として取り上げられていて、これもユニークかなと思いましたが、日本教科書株式会社については、ベーシックなつくりなのですからけれども、かえって小さめのところが生徒にとってはいいのかなという思いも持ちました。

ただ、その中で、日本文教出版と東京書籍は教材数が非常に多くて、小林委員からもありましたように、さらに豊富なジャンル、様々なテーマを取り上げているところがいいかなと思いましたが、それから、考えを議論する道徳授業への転換を図っていくには、その学び方がしっかりと身につく教科書がいいのではないかと思いますので、どの社も工夫しているのですけれども、私としては東京書籍、教育出版、日本文教出版がいいのではないかなとい

う思いを持っています。

さらに、要望や意見にも出てきております、ジェンダーの扱いについての視点については、これはどの社も扱っておりましたので、それについては問題はないかと思っておりますので、最終的には東京書籍、教育出版、日本文教出版株式会社のもの方がいいのではないかなと私自身は考えます。

ほかに各委員からご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

全体的にといいますか、各委員とも東京書籍というご意見でございましたが、道德につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、道德については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、道德につきましては東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それではこれで全ての種目の教科書についての協議が終了いたしましたので、事務局から採択候補として決定した教科書の説明をお願いいたします。

指導室長

それでは今回の採択候補として決定した教科書について、再度教科書順に確認とご説明をいたします。

まず国語ですが、光村図書株式会社の『国語』。

書写が教育出版株式会社の『中学書写』。

地理的分野が株式会社帝国書院の『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』。

地図が株式会社帝国書院の『中学校 社会科地図』。

歴史的分野が教育出版株式会社の『中学社会 歴史 未来をひらく』。

公民的分野が教育出版株式会社の『中学社会 公民 ともに生きる』。

数学が東京書籍株式会社の『新しい数学』。

理科が東京書籍株式会社の『新しい科学』。

音楽（一般）それから音楽（器楽）ともに教育出版株式会社の『中学 音楽 音楽のおくりもの』。

美術が日本文教出版株式会社の『美術』。

保健体育が株式会社の大修館書店の『最新 中学校 保健体育』。

技術が開隆堂出版株式会社の『技術家庭 技術分野』。

それから家庭科も開隆堂出版株式会社の『技術家庭 家庭分野』。

英語が開隆堂出版株式会社の『SUNSHINE ENGLISH COURSE』。

道徳が東京書籍株式会社の『新訂 新しい道徳』でございます。

入野教育長

続いて、小学校で使用する教科用図書について協議をいたします。

初めに事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

令和3年度に区立小学校で使用する教科用図書についてご説明いたします。

教科書につきましては、令和2年度から使用している教科書、これを引き続き使用するものとさせていただきたいと思っております。

ご紹介しますと、国語が光村図書出版株式会社の『国語』。

書写が日本文教出版株式会社の『小学書写』。

社会が東京書籍株式会社の『新しい社会』。

地図が株式会社帝国書院『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』。

算数が東京書籍株式会社『新しい算数』。

理科が大日本図書株式会社『たのしい理科』。

生活が東京書籍株式会社の『新しい生活』。

音楽が教育出版株式会社の『小学音楽 音楽のおくりもの』。

図画工作が開隆堂出版株式会社の『図画工作』。

家庭が開隆堂出版株式会社の『小学校 わたしたちの家庭科』。

保健が株式会社光文書院の『小学保健』。

英語が東京書籍株式会社『NEW HORIZON Elementary English Course』。

道徳が東京書籍株式会社の『新訂 新しい道徳』でございます。

これはいずれも昨年度採択していただいた教科書をそのまま使わせていただくということでございます。

入野教育長

ただいまの説明のとおり、引き続き令和3年度の1年間、同様の教科用図書を使用することについて、ご意見はございますでしょうか。

確認をさせていただきます。

この間に、それぞれ今、採択候補になっている教科書については、特段の問題とか変更とか、そういうものはございましたでしょうか。

指導室長

いずれの教科書も絶版等ございませんし、特段の意見や使用上の支障等は一切ございませんでした。

入野教育長

それでは各委員ご発言がございませんので、現行使用している教科書を改めて変えるという意見はございませんでした。

教育委員会としては、小学校で使用する令和3年度の教科用図書については現行のものを引き続き使用するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、小学校の教科用図書については、現行のものを採択候補とすることに決定いたしました。

続いて、特別支援学級で使用する教科用図書について協議を行います。

事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第9条により、特別支援学級において学校教育法附則第9条に規定する教科用図書または同法第34条に規定する文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用する必要がある場合においては、当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聴くこととしております。

つきましては、資料「令和3年度使用一般図書の採択希望一覧」のとおり特別支援学級を設置している区立学校長より回答がございましたのでご報告いたします。

入野教育長

それでは各委員から質問等ご発言がございましたらお願いいたします。

伊藤委員

昨年も同様だったかとは思いますが、学校によって同じ教科書が全部の学年で

あったり、検定教科書を全ての教科、全ての学年で使う学校もあったり、そうでないものを選んでいるところもあるので、それぞれの特別支援学級設置校の方針というのはあるとは思いますが、どういふふうに教科書を位置づけているか、子どもたちにとって学びやすいものが何かということをお学校ごとに、単独ではなくて、学校相互に意見交換するなどしながら、よりよいものを選んでいただくとよいのではないかと感想をもちました。

以上です。

入野教育長

ほかにご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは特別支援学級で使用する教科用図書については、資料に記載の教科書を採択候補とすることをご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、特別支援学級で使用する教科用図書については、資料に記載の教科書を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、事務局から、今後の採択スケジュールの説明をお願いいたします。

指導室長

続きまして、今後の採択スケジュールについて申し上げます。

8月7日開催予定の定例会におきまして、先ほどの採択候補の中学校用教科用図書、特別支援学級で使用する教科用図書、また小学校用教科用図書について、議案として改めてご審議をお願いしたいと思います。

以上でございます。

入野教育長

採択候補として決定しました教科書については、事務局の報告のとおりですが、全体を振り返って各委員からご意見等ご発言がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それではただいま採択候補として確認いたしました教科書につきましては、8月7日の定例会において、議案として審議することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

本件教科書採択については、8月7日の定例会において議案として審議することといたします。

次に、非公開としてきました本件採択過程に係る会議録の公開の取扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

これまで本件教科書採択に関わる教育委員会の会議につきましては、採択過程における公正の確保等の観点から、非公開としてまいりましたが、8月7日の定例会におきまして本件教科書採択に係る議案が可決されました場合には、本件教科書採択に関わる教育委員会会議録の公開につきましてご審議いただき、本件会議録における非公開部分につきまして、個人情報に該当する部分を除き、公開する旨の決定をいただくものでございます。

公開の決定をいただいた場合の当該会議録の公開時期につきまして、その作成に一定の期間を要しますことから、当該会議録が調整され次第の公開となりますが、時期につきましてはおおむね9月下旬以降を見込んでございます。

なお、本件会議録の公開の方法につきましては、区政資料センターに一式を備えるとともに、教育委員会のホームページにおきまして、会議録の掲載をいたします。

また、選定調査委員会の資料等を含めました本件教科書採択に関わる一連の資料につきましては、指導室を窓口といたしまして、本件会議録とともに一括して備えおきまして、公開する予定でございます。

ご説明は以上でございます。

入野教育長

それでは、本件会議録については、ただいま事務局の説明のとおり、8月7日の定例会で教科書採択後に会議録の公開について議案として審議することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは本件会議録の公開につきましては、8月7日の定例会で教科書採択後に議案として審議することといたします。

その他報告等はございますか。

子ども・教育政策課長

7月16日の第2回臨時会におきましてご協議をいただきました8月7日定例会における

傍聴の事前申込みによる受付の結果につきまして、ご報告をさせていただきます。

事前申込みの人数は 38 人で、内訳は電子申請が 31 件、窓口が 5 件、はがきが 2 件でございました。

上限 50 人を超えませんでしたので、全員が傍聴者として決定をしたということでございます。

また、教育委員会宛てにいただいております要望書の中で、傍聴スペースを広くとることで希望者全員が傍聴できるようにすることにつきましてのご意見がございましたが、今回申込みをされた方につきましては、全員が傍聴していただけるということになりました。

ご報告は以上でございます。

入野教育長

何かご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかにご意見がございませんでしたら、本報告は終了いたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第 4 回臨時会を閉じます。

ありがとうございました。

午後 9 時 12 分閉会